

武道家との共同による指導の在り方

学校名 萩市立木間中学校（山口県）

全校生徒数 3名（男子3名 女子0名）

種目等 武道（剣道）

（本実践に係る問合せ先）

電話番号 0838（27）0715

学校メールアドレス koma@edu.city.hagi.lg.jp

1 実践研究のねらい

- （1）武道家から、武道の特性や精神を学ぶことを通して、人間形成の一助とする。
- （2）武道家との共同で授業を行うことで、専門的な知識や技能の指導力の向上を図る。

2 実践（研究）の概要

（1）課題について

生徒は、一昨年度・昨年度と剣道を学び、着装、礼法、基本動作、基本打突（技）まで学んでいる。生徒の剣道に対する興味関心は高いが、限られた時間での学習であるため、技能の習得というところまではいかなかった。

（2）期待される成果（仮説）について

専門的な指導により、武士道の精神にふれるとともに、我が国固有の伝統や文化を体感することで、武道の伝統的な考え方を理解することができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法

（1）武道家の指導による剣道学習

- ① 剣道の理念等の講話を通して、修練に対する意識づけをし、礼法等の指導を行った。
- ② 安全上の留意点、竹刀や防具の点検の仕方、剣道衣や防具の着装の仕方について確認した。
- ③ 基本動作、基本打突の技能を向上させ、しかけ技や応じ技を用いた攻防が展開できるように指導した。
- ④ 基本ルール・審判のやり方を説明し、簡単な試合をした。

2 取組を進める上での工夫点

- （1）剣道授業ふり返りカードにより、毎時間、自己評価を行った。（事前に今日の授業の目標設定、事後にふり返りを記入）
- （2）常に全体の動き（特に安全面）に留意し、技能面等においても支援の必要な生徒については適宜助言等を行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 安全面に配慮するため、事前に床の清掃・点検、竹刀や防具の点検・準備をさせた。
- 2 練習中の一人ひとりの動作に注視し、必要に応じて危険性を促し、正しく稽古させるようにした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 修練を積み重ねてこられた剣道家から直に話を聴いたり、技を教えていただいたりしたことで、剣道の奥深さ（特性）を感じることができ、生徒たちの心にも浸透していったように思う。
- 2 少ない時間ではあったが、「剣道とは...」「武道とは...」どういうものなのか、「礼に始まり礼に終わる」「相手を尊重する心」など人として大切なことを学ぶよい機会となった。
- 3 保健体育科教員としても、指導者としての考えや技術を学ぶことができ、資質の向上に繋がった。
- 4 武道は他のスポーツより技能の習得に時間がかかる。慣れてきた頃に終わりになるため、もう少し時間が設けられるとよい。

○ 研究内容

剣道修練における教え

『自彊不息』：日常の弛みない精進と努力を促す心の糧となる。



竹刀を用いた基本動作・基本打突の指導

正しい動作（姿勢、構え、足さばき、素振り、掛け声、間合い、残心）、正しい打突について指導を受ける。



気力の充実した掛け声の発声練習

呼吸を伴い、腹の底から自然にほとぼり出るように、大きく力強く発声する。



総合練習としての紅白試合

既習の技（しかけ技や応じ技、得意技等）を用いて、自由な攻防を展開する。



分析結果から

事前事後のアンケート、ふり返りカードの自己評価から本取組の客観的な評価をした。

- 取組の前後でのアンケートからは、ほぼ全員運動やスポーツへの興味や関心の高さが伺え、今後も継続して運動やスポーツに取り組みたいと考えていることがわかった。
 - 毎時間の自己評価から、満足度を算出した結果は次の通りである。
 - 【満足度 100%】：「剣道の練習や試合を楽しむことができた」「グループやパートナーと協力して活動した」「相手に対する礼儀を行動で示すことができた」「床や竹刀、防具等安全に注意して活動した」「練習の仕方を理解して、お互いに練習できた」「剣道の礼法、基本的な打ち方や受け方、技がわかった」
 - 【満足度 90%以上】：「自分の課題を見つけ、解決する練習ができた」「剣道の特性や歴史がわかった」「試合のルールや進め方がわかった」「つばぜり合いから面や小手、胴など退きながら打つことができた（引き技）」「攻める、打ち込もうとする起こりばなを打つことができた（出ばな技）」
 - 【満足度 80%以上】：「稽古や試合で作戦を立てることができた」「防具を正しく着脱できた」「大きな掛け声とともに面や小手、胴を正しく打つことができた」「左足を引きつけ二段技をしっかりと打つことができた」
 - 【満足度 80%未満】：「試合で審判を正しくすることができた」
- 以上のことから、武道家との共同の指導により、剣道に対する興味関心を高め、課題意識をもって意欲的に取り組むことができたと判断できる。

本実践終了後の本校の取組の方向性と内容

本校は今年度末で閉校のため、地域スポーツ指導者の活用は今年度までとなる。

三年間継続して同じ指導者に関わっていただき、段階を追って丁寧に指導していただいた。生徒は毎時間剣道の授業を楽しみにしており、剣道を学ぶ楽しさ・技を習得する喜びを体感することができた。また、剣道の理念等についての話を聞き、剣道以外にも通じる大切な考えを学ぶことができた。生徒たちの今後の成長に大いに生きていくものと考えた。